啓林堂書店外商部　担当:森川
TEL0743-51-1000/FAX0743-53-5151

書名	窯			著者名	近藤高弘／著		
出版社	青幻舎	ISBN	978-4-86152-998-6	本体価格	¥2,700	発売	2025/5/1
内容	代々続く京都の陶芸の家に生まれながら、現代アート領域で高い評価を得る近藤高弘が、今後の活動拠点として2024年に京都・花脊に自分の登り窯を造った。これまでの徹底したコントロールによる創作の対極ともいえる登り窯を、集大成の場として選んだのは何故か。本書は、福井・宮城・奈良吉野の登り窯との関わりから京都・花脊に登り窯をもつに至る30年の歳月、陶芸から離れようとした葛藤から変容、思索の軌跡をエッセイと写真で綴る。						

書名	古代官道の駅と史氏族			著者名	田辺堅三郎／著		
出版社	風媒社	ISBN	978-4-8331-5468-0	本体価格	¥1,800	発売	2025/5/1
内容	現在の「田辺」姓の集住から、1300年前、律令制時代の官路の駅との関係の解明を試みる。						

書名	羽柴秀吉とその一族 秀吉の出自から秀長の家族まで			著者名	黒田　基樹／著		
出版社	KADOKAWA	ISBN	978-4-04-703739-7	本体価格	¥1,840	発売	2025/5/7
内容	戦国武将のなかでもトップクラスの人気を誇る羽柴(豊臣)秀吉。著名な人物であるにもかかわらず、父母やきょうだい、親類の実態についてはいまだ謎に包まれたままである。秀吉の父親はどのような職に就いていたのか。弟・秀長の妻子はどのような人物なのか。「秀吉政権」の構造と性格を把握するうえで不可欠な一族・親族の情報を徹底検証。史料の発掘により通説が大きく書き改められるいま、秀吉の親族研究の到達点を示す。						

書名	図説 豊臣秀長			著者名	河内将芳／著		
出版社	戎光祥出版	ISBN	978-4-86403-575-0	本体価格	¥2,000	発売	2025/5/8
内容	兄秀吉との絆で成し遂げた天下取り！ 大河ドラマ「豊臣兄弟！」で注目が集まるも、兄秀吉の影に隠れベールに包まれてきた秀長の生涯。 若い頃から戦場を駆け回り、秀吉に最も信頼された天下一の〝懐刀〟としての実像を、多数の図版とともに最新研究でひもとく。						

啓林堂書店外商部　担当:森川
TEL0743-51-1000/FAX0743-53-5151

書名	唯識　心の探求12話			著者名	多川俊映／著		
出版社	笠間書院	ISBN	978-4-305-71040-6	本体価格	¥2,800	発売	2025/5/10
内容	阿修羅像の寺で知られる奈良の興福寺の元貫首(かんす)の著者が教える「唯識」の入門書。 唯識の発祥と沿革から解説し、表層心から深層心へと分け入り、阿頼耶識の入り口まで導く。唯識の本質である心の最深層である第七未那識を経て、第八阿頼耶識の世界へ誘う。複雑で難しい唯識哲学を諸仏典や諸文芸などでイメージを呼び起こしながら理解を深めていく、著者ならではの解説で初めて唯識を学ぶ人にも無理なくついてこれる1冊である。						

書名	古代王権の成立と展開			著者名	仁藤　敦史／著		
出版社	八木書店	ISBN	978-4-8406-2606-4	本体価格	¥10,000	発売	2025/5/16
内容	古墳～平安初期にわたる王権論が提示する新たな古代史像 5～9世紀の長期間にわたる王権を検証・相対化し、6世紀の欽明期、7世紀後半、桓武期を画期として設定。時代により変化する君主の条件に着目。近現代の天皇制に示唆を与える重要課題を提示。						

書名	律令国家の辺境と交通			著者名	編集:川尻　秋生、十川　陽一、藤本　誠		
出版社	八木書店	ISBN	978-4-8406-2276-9	本体価格	¥8,500	発売	2025/5/22
内容	時代と共に揺れ動いた律令国家と蝦夷・隼人・朝鮮半島等との境界で、何が起こっていたのか 東北地方の蝦夷、九州地方の隼人等、律令国家の支配が及ばない周縁との接点＝辺境に注目し、交通が果たした機能に迫る						

書名	いまを生きる民俗学			著者名	編集:八木透先生古希記念論集刊行会		
出版社	昭和堂	ISBN	978-4-8122-2425-0	本体価格	¥5,800	発売	2025/5/26
内容	学問としての民俗学の現状と課題を論じるとともに、各地の博物館学芸員・文化財行政担当者による活動・実践を描き出し、民俗学全体の動向と今後のあり方について考える。さらに京都に基盤をおきながら民俗学研究で活躍されている八木透先生がこれまでの活動とその思いを語る。						